



移築場所は裏川筋の河川環境整備計画地で、周囲との一体的な整備が計画されている



橋の路面は自然石の組み合わせ



高欄は大正時代のコンクリート製から自然石のものになった

DATA・BOARD 36

- ① 熊本県玉名市高瀬
- ② 面積：6,200㎡
- ③ JR鹿兒島本線玉名駅から徒歩約20分、九州横断自動車道宮崎線菊水1Cから車で約20分
- ④ 蛇ヶ谷公園、桃田運動公園、立願寺温泉、玉名市歴史博物館
- ⑤ 花しょうぶまつり、スケッチ大会、写真コンテスト



36 秋丸目鏡橋



玉名市では、都市景観形成のテーマに、歴史の息づく水と緑のまち玉名を掲げ、まちづくりを進めている。

この「秋丸眼鏡橋」は、天保三年頃に架橋されたもので、菊池川水系の裏川と県道玉名山鹿線との交差点部に位置し、市の重要文化財にも指定されていたが、裏川の河川局部改良事業により、ネット構造物としてやむなく撤去されることになった。そのため、先人の偉業を偲ぶ歴史的建造物として、高瀬地区の裏川筋の河川環境整備計画地内に移築復元されることになった。

復元にあたっては、移築前の橋の形を尊重しながら、高欄など明らかに後年施工とわかるものについては、同年代の石橋の資料を参考に創建時と大きな差異がないことを確認しながら、全体の見栄えにも配慮した設計を行った。なお、移築前と形を変えた部分は、後世でもわかるように現地案内板にも明記した。

移築が行われた裏川筋の上流には、高瀬眼鏡橋も存在しており、周囲には箱型の石橋や商家の石垣など多くの歴史的遺産が残され、かつての運河や港としての歴史を伝えている。現在、この歴史的情緒を活かした水辺の整備が進められており、秋丸眼鏡橋とこれらを結ぶ散策路が完成することにより、周辺が一体化された歴史性豊かな水辺空間となること期待されている。